

がつごう くろーずあっぷ
■れすぱす2月号 クローズアップ

ほうじん
NPO 法人 MIS (Multilateral Interaction with Students)

にほん とうなんあじあ がくせい みらい たね
～日本と東南アジアの学生が、ともに未来のための種まきを～

こんげつ くろーずあっぷ ほうじん
今月のクローズアップは、[NPO 法人 MIS \(Multilateral Interaction with](#)

[Students\)](#) をご紹介いたします。MIS は、東京大学の学生が中心と

うんえい かつどうもくてき しゃかい たい しゅたい
なって運営している NPO です。その活動目的は、社会に対し主体

てき せつきよくてき こうけん じせだいいーだー はいしゅつ とう
的・積極的に貢献できる次世代リーダーを輩出していくこと。東

なんあじあかつこく がくせい げんち しゃかいもんだい む あ
南アジア各国の学生たちとともに現地の社会問題に向き合い、その

かいけつ と く ぶろじえくと てんかい なか げんち がくせいだん
解決に取り組むプロジェクトを展開する中で、MIS と現地の学生団

たい めんばーそうほう せかい ひ ぱ じせだいいーだー せいちょう
体のメンバー双方が、世界を引っ張る次世代リーダーに成長していく

めざ こんかい だいひょう ふかざわたくあふみ こうほう にし
ことを目指しています。今回は、代表の深澤崇史さんと広報の西

みやゆたか かつどう くわ はなし うかが
宮豊さんに、MIS の活動について詳しくお話を伺ってきました。

だいひょう ふかざわし みぎ
代表の深澤氏(右)と

こうほう にしみやし ひだり
広報の西宮氏(左)。

とうきょうだいがくきょうようがくぶ
ともに東京大学教養学部

ぶんかにるい ねん ざいせき
文科二類2年に在籍。



せつりつ けいい おし
Q. MIS 設 立 の 経 緯 を 教 え て く だ さ い。

ふかざわ ひんこん かくさ もんだいいしき も ふたり とうだい
A. 深 澤 さん: 貧 困 や 格 差 に つ い て 問 題 意 識 を 持 っ て い た 二 人 の 東 大

せい かんぼじあ りょう せつりつ
生 が カンボジア を 旅 行 し た こ と、そ れ が MIS 設 立 の き っ か け と な り ま し た。

げんち かつどう ひと じぶん かつどう
こ の と き、現 地 で 活 動 す る NPO・NGO の 人 た ち か ら 「自 分 た ち の 活 動

もんだい お あと おうきゅうしょち き ふたり もんだい お げん
は、問 題 が 起 き た 後 の 応 急 処 置」と 聞 い た 二 人 は、「問 題 が 起 き る 原

いん あぶろーち かつどう かんが だんたい た あ
因 に アプ ロ ー チ す る 活 動 を で き な い か」と 考 え、団 体 を 立 ち 上 げ る こ と

けつい ねん せつりつ ねん ほうじん しゅとく
を 決 意 し た そ う で す。2011 年 に 設 立 さ れ、2013 年 に NPO 法 人 を 取 得 し

りねん かか しゅたいてき しゃ
た MIS は、「Seed the future, Lead the world”を 理 念 に 掲 げ、主 体 的 に 社

かい こうけん じせだいいーだー いくせい もくてき かつどう
会 に 貢 献 で き る 次 世 代 リーダ ー の 育 成 を 目 的 と し て 活 動 し て い ま す。

がくせい かつどう い とうなんあじあかつこく ていけいさき
学 生 な ら で は の 活 動 と 言 え る の は、東 南 ア ジ ア 各 国 で 「提 携 先」と

よ げんち がくせいだんたい きょうどう げんち よ そ かつどう
呼 ぶ 現 地 の 学 生 団 体 と 協 働 し な が ら、現 地 に 寄 り 添 っ た 活 動 を

おこな げんざい みゃんまー いんど いんどねしあ まれーしあ
行 っ て い る こ と。現 在、ミヤ ン マ ー、イ ン ド、イ ン ドネ シ ア、マレー シ ア、

ふいりびん ベとなむ にほん たんとう ちーむ にほんちーむいがい
フイリピン、ベトナム、日本を担 当 す る チー ム が あ り、日 本 チー ム 以 外 は、

はるやす なつやす かい げんち おもむ しゃかいもんだい かいけつ めざ
春 休 み と 夏 休 み の 2 回、現 地 に 赴 い て 社 会 問 題 の 解 決 を 目 指 し

ぷろじえくと じっし
た プロジェク ト を 実 施 し て い ま す。

かつどう とくしょく おし
Q. MISの活動の特色を教えてください。

ふかざわ たいしょう しゃかいもんだい み だ げんいん
A. 深澤さん：対象とする社会問題を見つけ出すところから、原因

ぶんせき かいけつさく かんが ぷろじえくと じっこう ふ かね おこな
を分析して解決策を考え、プロジェクトを実行して振り返りを行

かくち一む いちにん かつどう
うところまで、すべて各チームに一任されているというのが、MISの活動

さいだい とくしょく おも ぼく ざいせき みやんま一ち一む
の最大の特 色 だ と思います。僕が在籍していたミャンマーチームの

きょういくぷろじえくと れい はな みやんま一
「ごみ教育プロジェクト」を例にお話しすると、そもそもミャンマーのご

もんだい め む やんごん おとず めんば一
み問題に目を向けるきっかけとなったのは、ヤンゴンを訪れたメンバーの

ひとり しない ただよ にお げんいん みちばた たいりょう き
一人が、市内に漂う臭いの原因が道端の大量のごみにあると気づ

ご いんた一ねっと りさ一ち ていけいさき がくせい
いたことでした。その後、インターネットでのリサーチや、提携先の学生

とお みやんま一 もんだい お
たちとのSNSでのやりとりを通して、「ミャンマーでごみ問題が起きている

てきせつ きょういく おこな あき
のは、適切なごみ教育が行われていないから」ということが明らかに

きょういく て一ま ぷろじえくと じっし すす
なり、ごみ教育をテーマとしたプロジェクトの実施へと進んでいったので

ぷろじえくと さいしょ さいご いっかん かか
す。このように、プロジェクトの最初から最後まで、ずっと一貫して関わ

かつどう みりょく もんだいかいけつ
ることができるのが MIS の活動の魅力であり、このことが問題解決

のうりょく も じせだり一だ一 はいしゅつ むす かんが
能力を持った次世代リーダーの輩出に結びついていくのだと考 え

ています。



みゃんまー きょういくぷろじえくと じっし
ミャンマーでゴミ教育プロジェクトを実施。

そういんがっこう こ
僧院学校の子もたちと

がっこうしゅうへん ひろ
学校周辺のごみ拾いをしました。

© MIS



ふるたいや りょう ばこ
古タイヤを利用したゴミ箱づくり。

はじ りさいくる たいけん
初めてリサイクルを体験する

こ きょうみ
子どもたちは興味しんしんです。

© MIS

みゃんまーちーむ きょういくぷろじえくと すこ おし
Q. ミャンマーチームの「ゴミ教育プロジェクト」について、もう少し教
えてください。

ふかざわ みゃんまーちーむ じもと てら けいえい そういん
A. 深澤さん：ミャンマーチームでは、地元のお寺が経営している僧院

がっこう にど きょういくぷろじえくと じっし
学校で、二度にわたって「ゴミ教育プロジェクト」を実施しました。2018

ねんはる ところ さい せいと ぼいす りゆう
年春の渡航では、10～12歳の生徒たちにポイ捨てをしてはいけない理由

ぶんべつ ひつようせい おし じっさい み まわ ひろ
とゴミを分別する必要性を教えたほか、実際に身の回りのごみを拾

かつどう おこな ねんなつ ところ
ってみるという活動も行いました。そして2018年夏の渡航では、ゴミ

きょういく げんち せんせい おこな めざ がっこう
教育を現地の先生たちが行えるようになることを目指して、学校で

じっこうかのう きょういく わーくしょっぷ でもじゅぎょう じっし
実行可能なごみ教育についてのワークショップやデモ授業を実施

しょう きょういくまにゅある ぼく に
しました。このとき使用した「ごみ教育マニュアル」は、僕たちがまず日

ほんご さくせい えいご ほんやく ていけいさき がくせい
本語で作成し、それを英語に翻訳したものを提携先の学生たちに

わた びるまご ほんやく ぼく
渡して、さらにビルマ語に翻訳してもらったものです。僕たちはこの「ご

きょういくまにゅある やんごんし きょういくいいんかい も こ かくさん
み教育マニュアル」をヤンゴン市の教育委員会にも持ち込み、拡散

きょうりょく いらい きょういくぶろじえくと お
に協力してほしいと依頼してきました。「ごみ教育プロジェクト」が終

まにゅある とお みゃんまー きょういく ひろ
わっても、このマニュアルを通してミャンマーにごみ教育が広まっていっ

ねが
てくれることを願っています。



きょういくまにゅあるかくさん
ごみ教育マニュアル拡散のため、

こくみんみんしゅれんめい きょういくぶもん
NLD（国民民主連盟）の教育部門から

たすう がっこう しょうかい いただ
多数の学校を紹介して頂きました。

© MIS



ぶろじえくと おこな がっこう
プロジェクトを行った学校では、

ご ぶんべつ
その後もごみの分別が

おこな かくにん
行われていることが確認できました。

© MIS

にほんちーむ かつどう き
Q. 日本チームの活動についてもお聞かせください。

にしみや にほんちーむ まいとしなつ めいぜんご とうなんあじあ がく
A. 西宮さん:日本チームでは、毎年夏に10名前後の東南アジアの学

せい にほん まね ぷろじえくと じっし
生を日本に招く“Experience Japan”というプロジェクトを実施していま

かいがい くに がくせい いっしょ かつどう ほか ちーむ こと
す。海外でその国の学生たちと一緒に活動する他のチームとは異な

にほんじん しゅたい さまざま くに がくせい あつ たこくかん こう
り、日本人が主体となって様々な国の学生を集め、多国間の交

りゅう てん ぼく にほんちーむ さいだい とくちょう
流をしている点が、僕たち日本チームの最大の特徴です。

まいとし てーま せってい かん こうぎ
“Experience Japan”では毎年ひとつテーマを設定し、それに関する講義

ふいーるどわーく おこな にほんぶんか たいけん かんこう ようそ
やフィールドワークを行うほか、日本文化の体験や観光といった要素

い やく にちかん す さいと ぼしゅう
も入れ、約10日間をともに過ごします。FacebookやMISのサイトで募集

きじ め ひと かつこく ていけいさき かこさんかしゃ ちじんゆうじん
記事を目にした人のほか、各国の提携先や過去参加者の知人友人な

るーと おうぼ き ひと ふ ことし せんこう ころう
ど、さまざまなルートで応募して来てくれる人が増え、今年は選考に苦労

もともと ぷろじえくと はじ
するほどでした。また、元々このプロジェクトが始まったきっかけとして、

りゅうがく きんせんてき むずか とうなんあじあ がく
「留学したいけれど、金銭的に難しい」ともらす東南アジアの学

せい りゅうがく るい きかい ていきょう
生たちに、どうにかして留学に類するような機会を提供したいとい

おも さんかしゃぜんいん ところひ ほじよ
う思いがあったため、参加者全員の渡航費をこちらで補助しています。



わーくしょっぷ
“Experience Japan” のワークショップ。

かっこく さんかしゃ かんが
各 国 からの参加者がともに 考 えます。

© MIS



ぐるーぷわーく なか で あいであ
グループワークの中で出たアイデアを

たが はっぴょう あ
互いに発 表 し合います。

© MIS

かっこく ていけいさき がくせいだんたい かいたく
Q. 各 国 の 提 携 先 の 学 生 団 体 は どの よう に し て 開 拓 し て い る の で す
か。

にしみや ねん なつ かんぼじあ あら ていけいさき さが
A. 西 宮 さん： 2018 年 の 夏 に カンボジア で 新 た な 提 携 先 を 探 し て き

さい ていけいさき めんばー べつ だんたい しょう
た の で す が、 そ の 際 に は、 か つ て の 提 携 先 の メンバー に 別 の 団 体 を 紹

かい こじんてき かんぼじあ がくせい
介 し て も ら っ た り、 個 人 的 に カンボジア の 学 生 に つ な が り が あ っ た MIS

めんばー いぜんかんぼじあ かつどう しゃかいじん かた しょうかい
の メンバー や、 以 前 カンボジア で 活 動 さ れ て い た 社 会 人 の 方 に 紹 介

とこうまえ がくせいぐるーぷ あ やくそく と
し て も ら っ た り し て、 渡 航 前 に 4 つ の 学 生 グループ と 会 う 約 束 を 取 り つ

ご げんち じっさい あ たが
け る こ と が で き ま し た。 そ の 後、 現 地 で 実 際 に 会 っ て み て、 互 い に や り た

ふーりんぐ あ たし うえ こんせんさす
い こ と や フィーリング が 合 う か な ど を 確 か め た 上 で、 コンセンサスが と れ た

だんたい ていけいさき せつりつとうしょ なん こね
団 体 に 提 携 先 と な っ て も ら い ま し た。 ち な み に 設 立 当 初 は 何 の コネ

くしょん げんち だいがく でんわ めーる ちよくせつこんたくと
クションもなかったので、現地の大学に電話やメールで直接コンタクト

がくせいだんたい しょうかい こんご てきとう こねくし
して学生団体を紹介してもらったそうです。今後も適切なコネクシ

よん ばあい かた ところ
ョンがない場合には、そういうやり方を試みることになるかもしれません。

せつりつ ねん だんたい せい
Q. MIS の設立から7年。団体としてどのような成果をあげているとお

かんが
考 えですか。

ふかざわ かつどう ねんせい しゅたい まいとしだい
A. 深澤さん：MIS の活動は1・2年生が主体となっており、毎年代

が ちーむ いち ぷろじえくと すたーと かた き
替わりしたチームが一からプロジェクトをスタートさせるというやり方を基

ほん きんねん げんち ていけいさき せだいこうたい
本としてきました。けれども近年、MIS も現地の提携先も世代交代が

うまくいくケースが増えてきたため、引継ぎをしながら複数年にわたるプ

ろじえくと じっし おお せい
ロジェクトを実施することで、より大きな成果を狙えるようになってきま

せつりついらいつ かせ さまざま ぷろじえくと せい
した。また、設立以来積み重ねてきた様々なプロジェクトの成果を外部

あびーる ざいだん じよせいきん う
にアピールすることで、財団などから助成金を受けられるようになってき

ています。

にしみや めんばー とうなんあじあかつこく がくせい
A. 西宮さん：MIS は、メンバーと東南アジア各国の学生たちがとも

じせだいいーだー せいちょう めざ かんてん
に次世代リーダーへと成長していくことを目指しています。その観点か

げんち いっしょ かつどう がくせい いしき か かん
らいうと、現地で一緒に活動する学生たちの意識が変わってきたと感

じれい おお せい
じる事例があることは大きな成果だと思います。僕が所属していたベト

なむちーむ ていけいさき がくせい さいしょ いらい おう
ナムチームの提携先の学生たちも、最初はこちらからの依頼に応じて

うご しい せっきょくてき いけん い しゅたいてき うご
動くだけでしたが、次第に積極的に意見を言い、主体的に動いてく

へんか め かれ いっしょ かつどう
れるようになりました。こうした変化を目にすると、彼らと一緒に活動し

ほんとう よ おも
てきて本当に良かったなと思います。



めんばー あつ ていれいかい
MISのメンバーが集まる定例会。

かだいかいけつ しゅほう ぜんたい しえあ
課題解決の手法はMIS全体でシェア。

かくちーむ しんちよくじょうきょう ほうこく
各チームの進捗状況の報告や

がっしゅく おこな わーくしょっぷけいしき
合宿を行い、ワークショップ形式で

かつどう やくだ すきる しゅうとく おこな
活動に役立つスキルの習得を行います。

しゅうちゅうてき まな
集中的に学びます。

© MIS

© MIS

こんご かつどう てんかい おし
Q. 今後の活動の展開について教えてください。

ふかざわ げんざい めんばー きゅうげき
A. 深澤さん: MISは現在、メンバーの急激な

ぞうか じたい ちよくめん いぜん ち
増加という事態に直面しています。以前は1チ

ーむ めい だれ ひとり か ぷろじえくと
ーム3~4名で、誰か一人でも欠けるとプロジェクト

た ゆ ぜんいん つよ せきにんかん
が立ち行かなくなるため、全員が強い責任感を



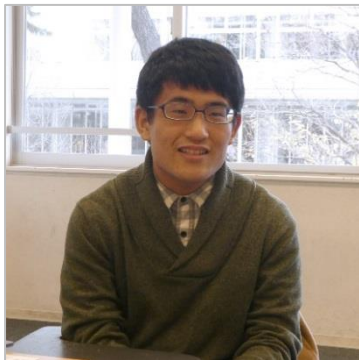
も かつどう いま にんずう ふ もくてきいしき
持って活動していました。しかし今は人数が増えたことで、目的意識や

じぶん やくわり めいかく めんばー う かんきょう
自分の役割が明確でないメンバーが生まれやすい環境になってしまっ

こんご あたら ちーむ た あ きそん わくぐ
ています。今後は新しいチームを立ち上げるなどして、既存の枠組みにと

かつどう かのう めんばー ていじ
らわれない活動が可能なのだとすることをメンバーに提示し、MISをもつ

せいちょう かんが
と成長させていきたいと考えています。



にしみや ちーむたんい かつどう べつ
A. 西宮さん：チーム単位の活動とは別に、

ねん がつ いっぱんざいだんほうじんこくさいきょう
2019年2月に、一般財団法人国際協

りよくせんたー きょうりよく にちあせあ
力センター (JICE) と協力して「日アセア

んがくせいかいぎ かいさい にほん がくせい あ
ン学生会議」を開催します。日本の学生とア

せあんかつこく がくせいやく めい とうきょう あつ
セアン各国の学生約140名が東京に集ま

てーま ぎろん こうえん ふいーどわーく
り、いくつかのテーマについて議論するほか、講演やフィールドワークなど

おこな よてい かいさいご なん かたち せいか あうとぷっと
も行う予定です。開催後には、何らかの形で成果をアウトプットし、

どうよう かいぎ かいがい じっし ほうこう すす
できれば同様の会議を海外でも実施する方向で進めていきたいと

かんが げんざい きかく うんえい だいがくいんせい せんばいふたり ちゅうしん
考えています。現在、企画・運営は大学院生の先輩2人が中心

ねんせい うんえいめんばー さんか くに かきね こ
となり、1~3年生が運営メンバーとして参加しています。国の垣根を超

しゃかいもんだい かんが ぷろじえくと ぼく おお
えて社会問題について考えるプロジェクトということで、僕たちも大

きたい よ
きな期待を寄せています。